

私たちも新キャンパス完成を 心待ちにしています！

「地域との共生」を掲げる新キャンパスプロジェクトへは、
学外からもたくさんの期待の声が届いています。

卒業生との幅広い交流の場に

111周年を迎えた歴史あるTCMに、今世紀にふさわしい情報発信地である「中目黒・代官山キャンパス」が完成することを心待ちにしています。

私は付属高校入学から大学卒業まで、そして講師として約半世紀にわたり本学と関わってまいりましたが、池袋キャンパスの充実と発展には隔世の感があります。また、新たに中目黒・代官山という地への進出に、期待が膨らんでおります。緑豊かな環境でありながら、国際的・文化的レベルの高いまちづくりの一環に請われての新キャンパスで、新しい地域の皆さまとの交流をもつことで、学生にとって刺激があり、学ぶことも多々あると思います。さらに、卒業生である私たち校友会との幅広い交流をもてる場であることに期待しております。ますます便利になる周辺地域の変化をおとして、発想力と創造性が広がっていくと思います。

校友会会長 井田 康子

区にとっても大きな 存在となることを期待

近年の中目黒は、個性的な店舗や目黒川沿いの散策を楽しむ人気のまちであり、クリエイターや最先端カルチャーなど時代に敏感な人びとが集うまちへと発展しています。また、隣接する代官山エリアでは、閑静な住宅街やヒルサイドテラスなど洗練された大人のまちとして、多くの人が訪れています。

こうしたなか、TCM新キャンパスは、中目黒と代官山をつなぐ核として、多くの人々が行き交い、音楽芸術を感じる場になるとともに、音楽を世界へ発信する拠点として、目黒区にとって大変大きな存在となることを期待しております。また学生の皆さんが、多様な人々と文化と出会い、成長の舞台として「まちと協奏する」ことができるよう、区としてもまちづくりの取り組みを通じて応援してまいります。



目黒区長
青木 英二

東京目黒ロータリークラブ創立50周年記念式典・祝賀会 東京目黒ロータリークラブより

植樹のご寄付 をいただきました！

創立50周年を迎えた東京目黒ロータリークラブが、記念事業として中目黒・代官山キャンパスを緑のキャンパスとするため、多くの樹木を寄贈してくださいました（諸費用を含む金500万円）。5月17日、同クラブ創立50周年記念式典・祝賀会にて、植樹目録の贈呈式が行われました。

冒頭の挨拶にて、同クラブの羽田伊助前会長は、「ひとり1本の植樹」という国際ロータリー/イアン・ライズリー前会長による提案を思案していたところ、TCMとめぐり合い、鈴木理事長の許しを得て新キャンパス内に一般の方々も利用できる『音楽の森』を実現することができました。これを機にTCMと奉仕の絆を深め地域に役立ってまいりたい」と、植樹の意義を紹介。青木英二目黒区長も登壇し、「目黒区に新キャンパスを開校するTCMは、都内に新設される最後のキャンパスとなるかもしれません。地域に開かれたキャンパ

スを作るという鈴木理事長のご意匠に感銘をうけており、目黒の地域経済の活性化につながることを大いに期待しています。TCMの皆さん、目黒区民の皆さん、ロータリークラブの会員の皆さんが力を合わせて、目黒の文化を発展させていきたい」と、期待を示しました。

植樹目録の惠贈を受けた鈴木勝利理事長は、「新キャンパスは、『緑に駆け込む』『地域文化に駆け込む』『防災の拠点』というコンセプトを掲げています。植樹のご寄贈は『緑に駆け込む』キャンパスを実現させるものです。今ある樹木ではなく、武蔵野の自然の森を再生すべく、季節折々の固有種を1本1本こだわって選定しています。音楽と駆け合い、文化を感じられるようなキャンパスになればと願っています。地域の発展、世界に向けた文化の発信のため、永らく皆さまとともに力を尽くしてまいりたい」と、表明しました。

上／羽田前会長から植樹目録の惠贈を受ける鈴木理事長。中／新キャンパスへの期待を表明した青木目黒区長。下／開会に先立ち、大谷康子教授ヴァイオリン演奏、山崎早登美講師ピアノ伴奏、学生3人による記念コンサートを開催し、会場を沸かせました。



**レコーディングは
演奏と緊密な関係に。
その知識を、実地で学ぶ**

知識と技術があれば、自作の音源を自宅から全世界へ向けて配信することが可能な時代。プレイヤーにとっても、録音・録画のスキルは必須のものとなりつつあります。TCMでは、そんな時代のニーズに対応すべく、新キャンパスに最新設備を備えた録音・録画スタジオを設置。ホール、スタジオ、オーケストラ専用練習室の3施設をリンクし、そこで収録した作品は配信やアーカイブにより随時閲覧可能となる予定です。

アーカイブされた素材は、学内、学外、ひいては世界に向けて発信。全学を対象に、コンサート、公開授業の録音・録画、学生の演奏・作品の発表など、さまざまな目的で活用される予定です。

伝統あるクラシック界も例外なく変化し続けている昨今。オーディション用の音源素材のよし悪しが何にしろもかがわること、マイクの位置ひとつによる、音の劇的な変化を知っていること。レコーディングについて学ぶことは、プレイヤーに限らず、音楽に携わるすべてのエキスパートにとって必ず大きな武器となるはずです。

音楽の エキスパートとして 録音・録画を学ぶ。

現在、ほかのあらゆる分野同様、音楽の世界でも「自ら発信していく力」は、重要なスキルとなっています。そして、音楽の主體的な発信にあたり、今後必ずその一助となるのが録音・録画の知識です。新キャンパスでは、全学生を対象に、「音楽を録音ということはどのようなことか」ということから学べます。すべての学生が、ここで音楽のエキスパートとしての大きな武器を手に入れることが目標です。

使い方。

授業はもちろん 各オーディション収録に対応。

スタジオの使用は、TCMのすべての学生が対象。録音の基本から、知識のみならず、技術を学ぶ場として授業に活用されます。さらに、オーディションに提出するための音源素材収録などの目的でも使用可能。ほかにも、オーケストラや吹奏楽の定期演奏会前の録音、アンサンブル授業での使用などをおし、学生が自らの演奏を確認することが可能となります。



**録音スタジオが
スゴいらしい！**

知りたい！

最新鋭の録音・録画スタジオも特色のひとつ。設備の見どころだけでなく、そこに込められたTCMの新たな決意に注目です。

音と映像を 自分の武器と するために。

全学生が活用できる録音・録画スタジオ。
何を目的とし、どんな設備を備え、
どう使われていくのかをご紹介します！

7.1chサラウンド& 4K対応の 最新スタジオ。

音響システムは、7.1chサラウンド対応（2ch、5.1chも可能）。まるでヨーロッパの劇場やホールの響きのような、前後上下左右360度方位からの音響も体感できます。さらに日本に数台しか導入されていないアナログ・ミキサー卓も設置。アナログ収録による最高品質のマスター音源は、その後デジタル圧縮なども自在です。映像収録は4Kにも対応。編集やMAなどについても、多くの知識を学ぶことが可能な環境です。

監修はこの人！

株式会社 豊島総合研究所
豊島 政実

当スタジオの音響コンサルタントとして最も心を砕いたことは、スタジオにも展開される「まちと協奏するみどりの音楽大学」のデザインコンセプトをいかに消化して音響設計に取り入れ、最高のスタジオに仕上げるかという点でした。自然光を取り入れるための天窓にはアビードスタジオで成功した音響処理を施しました。正面壁の太樹の幹のイメージは音響拡散体として、さらに幹から伸びる光の枝の間から見える天井はパネルにより反射と吸音のバランスをとりました。仕上げはすべて暖かい響きを作る木質と布を使用しています。天井からスタジオの床にこぼれる自然光とあいまって、豊かな響き心地よい音の空間を醸し出し、演奏者たちをインスパイアします。

